

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

冬期間は暖房器具が欠かせない。だが、高齢社会の到来は、建物の老朽化や使用年数が大幅に経過した暖房器具で暮らす生活実態を

余儀なくされている。全国から、火災による高齢者の死亡状況を聞く度に、これから更に増えるのではと危惧してしまふ。

今月中旬に山ノ内町の老舗旅館「よるすや」の国指定登録文化財「松籟荘」の火災が報道された。「よるすや」と聞き、すぐに長野オリンピック冬季競技大会ジャンプ日本代表監督の小野学さんを思い出す。小野さんは、よるすや旅館の次男として生まれ、何時も、よく美家の自慢話を楽しそうに話していた。1980年に現役を引退するまで、各ジャンプ

大会で優勝し、引退後は、ナショナルチームのヘッドコーチを務め、日本の黄金期を築いた。特に印象に残る思い出が2つある。1つは、選手のために、多くの関係者に依頼をして、選手の練習環境

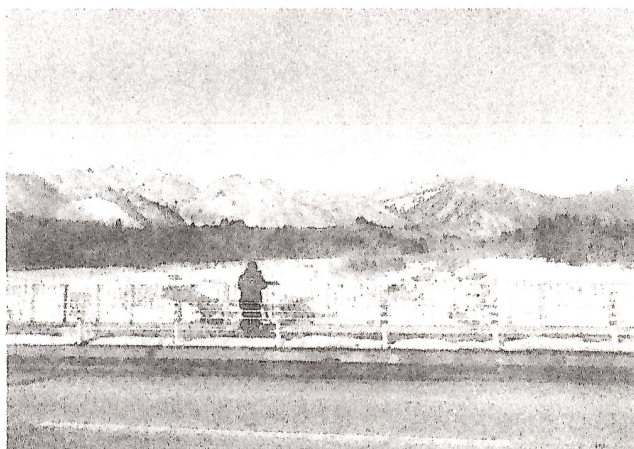
大会で優勝し、引退後は、野オリンピック現場でも、多くの語り継ぐべき物語は、多くの人には伝わっていないのが残念だ。

オリンピック現場で繰り広げられた物語を知る事が大切だ

大会で優勝し、引退後は、野オリンピック現場でも、多くの語り継ぐべき物語は、多くの人には伝わっていないのが残念だ。

大会で優勝し、引退後は、野オリンピック現場でも、多くの語り継ぐべき物語は、多くの人には伝わっていないのが残念だ。

大会で優勝し、引退後は、野オリンピック現場でも、多くの語り継ぐべき物語は、多くの人には伝わっていないのが残念だ。



松川・白馬大橋から多くのカメラマンが山並みを狙う、コロナ禍か冬季に似合わない服装が目立つ

大会で優勝し、引退後は、野オリンピック現場でも、多くの語り継ぐべき物語は、多くの人には伝わっていないのが残念だ。